

いんで
ねえか
ふんちや

vol.3

ふんちやの
歴史と未来



はじめに

ご挨拶 / これまでの2年間

今年度の取り組み

本当に“つぐってまった”「直売所ふんちや」
藤沢の獅子舞を残すために“けっぱったでばし”

講演録

藤沢の歴史を語る「鬼も掘った藤沢城の宝物」

藤沢地区座談会

平成28年度「ふんちや座談会」

ご挨拶

藤沢地区町会長 伊瀬谷 登



藤沢に活性化という「夢と希望」のきっかけをもたらした、平成26年度～27年度の青森県集落経営再生・活性化事業、その後も姿・形を変えながら、行政（青森県や平内町）の応援が私達を奮い立たせ、ついに平成28年4月1日「藤沢活性化協議会」が結成されました。下部組織には「直売所ふんちゃ」が発足し、私達は確実にステップアップしているのではないかと思います。はじめているところです。

「やれることから・楽しみながら・無理をせず・やれる人で」を基本に、私達は、地域の将来を夢みながら「健康で長生きし、楽しく明るく、笑いの絶えない集落」にと、ハックルベリー・ハタケシメジの栽培・脳活PPバンド教室・健康教室・地域内世代間交流・餅つき（繭玉）体験・藤沢獅子舞の保存会活動・他地域の交流に取り組んでいます。中でも紹介したいのは、「直売所ふんちゃ」の朝の出荷時間の様子です。昔ながらの井戸端会議そのものであり、みんなの弾んだ声や、笑い声、笑顔が絶えない雰囲気は、元気そのものです。

「いんでねがふんちゃ」「よぐなってきたふんちゃ」「まだいぐなるとふんちゃ」藤沢は元気と活力・魅力あふれる地域に生まれ変わろうと、今、一歩ずつ歩みはじめました。

これまでに取り組んできたこと

藤沢地区では、平成26年8月から半年かけて、青森県・平内町役場・弘前大学とともに、藤沢の現状を詳しく調べ、「将来どんな集落を目指したいのか」、「やりたいできそうな活動は何か」、「どんな心構えで活動に取り組んでゆか」をじっくり考えました。平成27年度からは、実際にさまざまな活動に取り組んできました。

藤沢が目指すのはこんな集落

- 住民がいつまでも若々しく生き生きと光り輝ける、しごと・ゆとりを持ち、健康である集落
- 皆で和気あいあいと楽しく、地域のつながりが絶えない集落
- 地区の外の人にも魅力的で、新しい人やアイデアを受け入れる開かれた集落

活動方針 ～活動をする上での心構え～

1. やれる人達が、やれることを、無理をせずに
2. 目の届く範囲の身近なものを活用して、いきがいく
3. 多世代の人々が集まり、交流する機会を増やす
4. 藤沢にゆかりのある外の人との交流の機会を増やす、つながりを強くする

今年度 取り組んだこと

今年度は、「新郷村川代地区との交流」や「健康教室開催」など、これまで取り組んできたことに加え、新たに①「獅子舞の継承」に向けた具体的な取り組み（後継者の育成）」を始めました。また、昨年度は検討段階にとどまっていた②「無人販売所の設置」について、準備と勉強会を重ね、7月にオープンすることができました。

昨年度から試験的栽培を開始した③「ハタケシメジ」の“ブランド化”に関しては、勉強会やレシピづくりにも取り組みました。今年度スタートを切った、これらの活動を通じて、ほんの僅かかもしれませんが、「未来のふんちゃ」の姿を垣間見ることができたのではないのでしょうか？

<p>4月 直売所に係る打合せ 及び講習会 7月まで毎週開催</p> <p>獅子舞継承に係る練習会 P.4 7月まで月2回開催</p> <p>今年度の取組み検討 ワークショップ</p>	<p>7月 先進地視察 秋田県大館市など</p> <p>新郷村 川代地区との交流 カゴづくり／パークゴルフ大会</p> <p>「直売所ふんちゃ」開設 P.3</p>	<p>8月 多世代交流 夏まつり開催 獅子舞の門付けなど</p> <p>直売所に係る打合せ 以降、月1回程度開催</p> <p>獅子舞継承に係る練習会 P.4 以降、月2回程度開催</p>
<p>9月 ハタケシメジの 植え込み</p> <p>新郷村の ファン感謝デー 参加 貝焼きホタテ販売</p>	<p>10月 ハタケシメジの収穫</p> <p>11月 健康教室開催 3回開催</p> <p>12月 ふんちゃ座談会 ※本誌収録 P.10 から</p>	<p>2017年1月 藤沢地区多世代交流新年会 披露数年ぶりの囃子の生演奏による 獅子舞の演舞 藤沢の歴史を語る講演会 ※本誌収録 P.5 から</p> <p>2017年3月 今年度の振り返りワークショップ</p>

本誌は、今年度から新たに始まった「直売所ふんちゃ設置」や「獅子舞継承」に向けた取り組みの紹介に加え、12月にふんちゃのお父さん、お母さんたちに小学校の頃の話をしてもらった「ふんちゃ座談会」、1月の新年会でされた、平内の歴史にとっても詳しい鬼柳さんによる「ふんちゃの歴史をテーマとした講演会」のお話を記録したものです。“ふんちゃを形作ってきた歴史”と“未来のふんちゃへの一歩”をお楽しみください。



本当に“つぐってよかった” 「直売所ふんちゃ」



絵に描いた餅が本物になった

平成28年度に「野菜や山菜などの無人販売所を設置する。」と発表はしましたよ。そしたら、3月から勉強会を始めて「いつオープンしたい?」って聞かれたので7月って答えたら……それから毎週、若妻会(昔も今も)が集まって、昔青年団だった若者達(?)が大工仕事して、なんと本当に「直売所ふんちゃ」出来てしまったんです!しかも、ちゃんと国道沿いさ!

オラつぐった野菜が飛んだ!

平成28年7月16日オープン。あっという間に野菜が無くなりました。隣の集落から来た人に「こごさ出来で良かったあ。」って言われました。みんなで交替の鍵開けと、集金を毎日やりました。出すものが無くてもついつい直売所に寄ってしまいます。寄れば「次何出すつきや。」「あれ出来だが?」と井戸端会議に花を咲かす若妻会の「たまり場」になりました。



今後に向けて

藤沢を離れた人が所有していた倉庫を借用し、男性陣が改装しペンキを塗り、運営は女性陣。それぞれが役割を担い地域の小さな拠点を自分たちで作りました。「自分たちの藤沢は自分たちで作っていく」そんな活動をこれからも続けていく皆さんの顔がハッキリ見えます。これからは、地域のお嬢さん、お嫁さんや離れているお子さんたち、お孫さんたちも関わる何かができたら嬉しいなあと思います。

藤沢の獅子舞を残すために “けっぱったでばし”

笛の練習会・囃子の記録撮影・笛の運指表づくり

藤沢獅子舞では笛を吹く人が不足していました。そこで、2016年の4月より講師を招いて獅子舞の笛の練習会を始めました。これにあわせて獅子舞の囃子の演奏を映像に記録したり、笛の練習のための運指表をつくったりする取り組みも行いました。記録撮影・練習会は2017年の3月までに21回行われました。記録や練習をした曲は獅子が村の中を回るときに奏でられる「ケンドジシ」です。秋から冬にかけては獅子舞の囃子のうち「ツバクラ」から最後の部分も記録することができました。

笛の練習会

初めての人もだんだんと音を出せるように。音を出しながら指を素早く動かせるようになった人も!

運指表づくり

「ケンドジシ」の曲を練習するための表をつくりました!

新年会

囃子方に笛の講師も交えて、数年ぶりに囃子の生演奏による獅子舞の演舞を実現しました!

今後に向けて

藤沢の獅子舞を残してゆきたいという思いを胸に、皆さんとともに練習会や囃子の記録、練習用の教材づくりに1年間取り組んできました。その結果、笛を吹けるようになってきた人もいます。また、藤沢獅子舞の囃子の仕組みについてもいろいろなことがわかってきました。今後は、練習会への参加を呼びかけながら、囃子の記録や教材作りをさらに進めていきたいところです。



獅子豆知識

藤沢獅子舞の特徴の一つは、歌の場面が多いこと。例えば、演目の後半以降を見ても「ツバクラ……」や「れんげの花……」、「キリギリス……」、「松にからまるツタの葉……」、「おらがクニから……」など、ほぼ各場面に歌があります。津軽平野に分布する他の獅子踊り(舞い)と比べてみても、これほど歌の場面が多い三匹獅子舞は数が少ないんですよ。

いて、浄林寺を建てたと書いてあります。浄林寺をどこに建てたかという、私が以前に行った調査によると、寺屋敷という墓所の向いに、浄林寺が一番最初に建てたということになっています。藤沢の佐々木という殿様が、大変信仰深かったと残っています。だいたい500年も前のことです。大したものでしょう。藤沢を中心にして、一つの勢力があったのです。

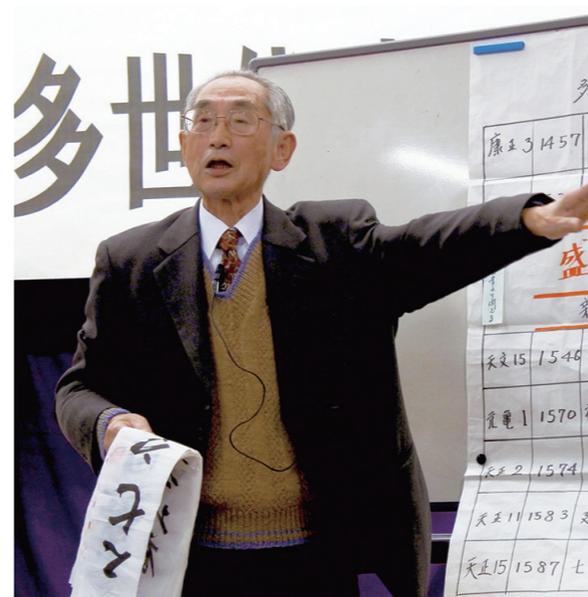
そしてもう一つ、盛田川を隔てて、あちら側にも一つの勢力があったのですが、それが福館の七戸という一族です。七戸隼人という人がいました。息子は修理といいました。証拠があります。青森の浪館という家の倉庫を探したら、出てきたのです。福館の殿様、七戸修理、藤沢の殿様、佐々木右馬允、土井館の殿様山口と。それを証拠に、いたということが出来ます。それが500年も前のことですが、書類としてちゃんと残っています。

藤沢の勢力と福館の勢力があって、その真ん中は、今は田んぼになっていますが、そのころは谷地でした。今、竹達には、大きな病院が建っているところがありますが、あそこは沼でした。こちらと小湊を遮っていた大きな沼でした。ですから、竹達と藤沢は全く分かれていました。こちらは藤沢佐々木家の勢力。あちらは、七戸家の勢力下にあったと考えています。

佐々木という苗字がこの辺にあったかという、実はないのです。天正19年、九戸の乱というのがありましたが、その時の偉い人たちの名前が残っています。その中にも佐々木という姓はありません。きっと上方から

来たのだらうと思います。鎌倉時代、佐々木(どうきょう?)という加賀の国の大きな侍がいました。伝説によると、その3代目で城が減んだとあります。佐々木氏は上方から来た人ではないかと言われています。藤沢は上方の人が住み、大きな勢力を持っていて、七戸は南部の人でした。南部対上方のにらみ合いがあったのです。その後、佐々木家と一帯の館の人たちは減んでいくのです。

では、なぜ減んだのか。今日、このためにどれほど勉強したことか。それを、私なりに解釈して、盛田川の合戦としたいと思います。盛田川があったため藤沢が減んだのです。これを裏付ける伝説があります。雷電様が(浅所の海岸に)あるでしょう。この頃は、雷電様は盛田にありました。そこから福館の殿様が移しました。その2代目の子供のお姫様が、盛田川で河童に取られて亡くなったという伝説があります。それを鵜呑みにして、河童伝説がありましたが、調べていくと、河童とは、敵軍です。河童が、つまりこちらの一族の隠密が、七戸家のお姫様を溺れさせて殺したということです。ですから、汐立川が煮立った際「今後このようなことはしないので助けてください」という内容の河童の証文が書いてあったということです。私は、その河童証文を降伏文書、条約文書だと思っています。佐々木一族が、勢力を伸ばしたいとして、七戸家との喧嘩があったのではないかと思います。河童がお姫様を取ったという石もあります。福館はあちらですが、戦場はこっちです。



さらに、雷電宮の伝説の中に、七戸氏側で白鳥が飛び立ったのを敵軍が見て、援軍の白旗と勘違いして、敵が逃げ去ったという白鳥伝説があります。これは、福館と藤沢が喧嘩した時、福館の城主は南部の家来でしたから、南部が攻めてきて白鳥が飛び立った。それを白い軍勢の旗が挙がったといったのではないかと伝説から推測しています。それを盛田川の合戦とします。その時、藤沢は潰れます。これを古い藤沢としています。盛田川の合戦で、福館の七戸家に攻め滅ぼされたのではないかと考えています。天文15年、今から471年前に北島という浪岡の殿様の家で書いた津軽郡中苗字という本があるのですが、それによると、平内は、山口、

小豆沢、田面木、田沢、清水川、山口と書いていますが、そこには藤沢の名前が出てきません。それは、藤沢が全滅したからだと推測しています。そうでなければ、藤沢が載らないわけがない。

盛田川の合戦の結果、古い藤沢は没落します。盛田川の合戦の原因を作った河童伝説。この伝説の際、お姫様の父親であった福館の城主、七戸修理という人が、434年前、姫の死を悲しみ延命地藏尊を作り、東福寺に収めました。東福寺にはこれがあります。平内の観光パンフレットの中にも延命地藏尊が載っています。町の重要文化財や、県の文化財にもなるのではないのでしょうか。このような古いものがある。死んだ姫の身代わりとして作られ、この地藏祭りが明治時代までずっと残っていました。平内には雷電宮の大祭があります。神輿と一緒に、このお地藏様を引いて歩いていました。明治になり、戦争がはじまるとやらなくなりました。本当は、やるといいのですが。8月3日、みんなが集まって拝むというのがありましたが、今無くなっています。

昔、35〜6歳の若かった頃、実際に藤沢に来て掘ってみました。館ヶ原で何度も掘りました。鉄の棒を作って刺してみたりしましたが、何も当たりませんでした。土器の破片が多く出る。ふんちや、藤野、館原、こちらにも掘ったが無かった。説ではあるとなっているのです。

盛田川の合戦の時に、殿様が佐々木右馬允。家老が竹達氏。青森スキーのところに家老がいました。平内史を昭和52年に船橋町長から命令を受けて作りました。

平成17年にも作りました。約4000ページに及びます。そこに書いてあるのですが、青森スキーのところを掘った時に出土した赤茶けた土器に、文字が書いてありました。文字をかけるのは侍です。そのような有識者が竹達の館にいたということになります。

伝説では、佐々木の殿様が討ち死にしたのか、逃げて、その子供たちを家老の竹達が背負い、財宝を埋めたそうです。450～500年前の話です。童子と藤沢は近くです。今、内童子に佐々木さんがいるのはそのためです。(ヤヘイといえば、弥惣治は、佐々木町長。)本家は藤沢でしょう。竹達も童子にもあります。童子の山の奥にたくさんの方が住んでいて、あまり里に降りてこなかったということです。それに目を付けて研究している人が、三杉という人でしたが、彼も解らないまま亡くなりました。最近、私が解ってきました。それらは、竹達さんと佐々木さんについていった一族、村人の集団でないかと思っています。その人たちが山奥で暮らしていたのではないかと思います。

盛田川の合戦で、古い藤沢が終わりました。新しい藤沢は七戸氏の領地となりました。そして、新しい人たちがやってきました。小形さん、伊瀬谷さん、小鷹さん、山脇さんです。慶長の頃で、今から430年位前です。その頃から藤沢は新しい時代を迎えます。皆さんのご先祖は、新しい時代のご先祖でありました。伊瀬谷家のご先祖は獅子舞の本家で、小形家は、小形の沢から出てきて八幡宮を作ったと伝説が残っています。そこ

からずっと続いているのが、今の藤沢です。

内童子村の子守神社。これは、藤沢から行った殿様たちが作った子守神社です。竹達一族も行きました。家老が、子供たちを背負って行き、しっかりと務めたので、子守神社が作られたという話が残っています。古い藤沢の街並みは(資料)3ページ目です。館ヶ原があります。今、私たちが来たところが、昔、本町、大官町といったそうです。囃子町や、戸田町など。伊瀬谷家のご先祖が代官町でいろいろなことをやっていて、獅子舞の練習をしていたらうるさいということで、戸田町に移りました。そして毎年、浄楽堂で獅子舞をしました。そのような町割りがありました。佐々木氏は、このような町割りの中にいたのですが、滅亡してしまいました。その後、新しい藤沢のご先祖たちがやってきて今に至っているのではないかと思います。

八戸では墓獅子が有名です。お盆には予約でいっぱいになります。1回5分程で、6万円位かかるそうです。その墓獅子はここから伝わったものです。八戸の鮫地区は、そんなに歴史があるところではありません。

我が藤沢には、400年前に墓獅子がありました。私が平内町史を作った時に、墓獅子の文句をみつけました。小鷹さんという方が、残さなくてはいけないということでずっと残っていたそうなのですが、その中の一説がこの墓獅子です。これは大変貴重なものです。これは、無くさないようにしていきたいと思っています。今日のことは、何かに役立てばと思っています。

平成28年度

ふんちゃ座談会

子ども時代の思い出を通して、藤沢地区のこれからの対する様々な想いを語り合いました。

参加者の皆さん / 伊瀬谷 和、伊瀬谷 登、小形 満子、小形 満仁、小形 好文、小鷹 節子、須藤 桂允、奈良崎 勇造
藤野 房子、森田 泰男、山谷 ヒロ子 司会進行 / 佐々木 純一郎(弘前大学教授)、土井 良浩(弘前大学准教授)

佐々木 只今から、藤沢地区の座談会を始めさせていただきます。司会は、私佐々木と土井両名で進めてまいります。皆様から一言ずつ、お名前、生年、現在と過去の藤沢地区での役員歴などお話しいただければと思います。

伊瀬谷登 伊瀬谷登です。生まれは昭和20年。現在71歳、間もなく、1ヶ月もしないうちに72歳になります。現在、町内会の会長を仰せつかっております。その他に、活性化協議会の会長と、農地保全の会の会計も引き受けています。農地保全の会は、今年度で一応5年目で終わりなんですけれども。そういうような状況です。**森田泰男** 私は森田泰男。昭和19年生まれ、樺太から引き揚げてこの地で育った、ということで。現在、活性化協議会の事務局を担当しています。そんなとこです。

小形好文 私は小形好文です。生まれた年は、昭和22年。現在69歳。町内会の役員とか、元・消防の分団長

座談会の流れ

- ① 自己紹介
- ② 小学校の思い出
- ③ 学校と家庭、地域との関係について
- ④ 中学校の思い出、今後への想い

とか、現在は公民館の館長。

小形満仁 昭和17年生まれ。あとちょっとで75歳。前は町内会長、それから消防団の分団長、今は農地保全の会の会長です。

伊瀬谷和 伊瀬谷和です。昭和12年、もうちょっとで80になります。

山谷ヒロ子 山谷ヒロ子です。昭和14年生まれ。77歳です。

男性 (山谷さんは)先の伊瀬谷和さんと姉妹です。

佐々木 付き合い長いわけですね。生れた時から。ありがとうございます。次の方をお願いします。

小鷹節子 小鷹節子です。昭和18年。

佐々木 せっかくですので、遠慮せずに。小学校の時のお話とか。

小鷹節子 神社の係やってました。八幡宮。

男性 これもしゃべっておかなきゃ。「孫が弘大に行ってます。」って

男性 獅子舞の笛吹く人の、あの人のおばあちゃん。
小形満子 小形満子です。昭和11年生まれ。今年80歳です。

佐々木 良いですね。区切りが良いですね。

小形満子 藤沢に来たのが19歳で来たので、子供4人あったので、早くから嫁に来て何年もないうちに、小学校に上がって、学校は自分も好きであったし、いつも行って、昔「家庭学級」ってあったんですよ。それにも参加した。学年別でも何でも、学校参観日には欠かさず行ってお勉強させていただきました。来て間もなく、そういう学校の婦人学級とか家庭学級とかでの役割をしたり、婦人会をやったり、現在老人クラブやらせてもらって（老人クラブの会長）、頑張っております。



男性 付け加えれば、この人は姉さんが亡くなってすぐ嫁に来たわけです。それで、姉さんの子供が大きくなっていました。それで、来てすぐに学校に関わった。姉さんの子供がいたので。

藤野房子 藤野房子と申します。昭和13年生まれ。間もなく、79歳になります。私も地元で生まれて、小学校の世話になったんだけど、だいぶもう忘れてしまって。前は神社の役目もやって、婦人部長やったり、婦人会の役員やったり、少し地域に貢献しました。

奈良崎勇造 昭和12年、79歳。昭和12年に藤沢で誕生して、それから樺太へ渡って、親が連れて行ったんだけど。そして戦争終わって、2年生か3年生の頃だと思ったけど、引き上げてきて東田沢の小学校へ入学しました。そこには2年位いた感じがする。それから藤沢へ、小学校5年生の時だったかな、来ました。そして現在に至っています。

佐々木 ありがとうございます。皆さん、全く同じ同級生という方はいらっしゃらないですか？

女性 この人たち同級生です。

佐々木 13年。じゃあちょうど学年が同じで、記憶はありますか？当時の。

女性 ある。この人たちが疎開してきて、私のうちが大きかったので、借家みたいにしてこの人たちが少し、住んでいたのを覚えています。

男性 俺は田沢に。

佐々木 それは、東田沢の方にも親戚がいらっしゃったんですか？

男性 うん、母親の出たところ。

佐々木 ということで、いろいろと、同級生や姉妹の方もいらっしゃるということでしたけれども。とりあえず、皆さんの共通の話題になりそうなことは、藤沢小学校がここにあったということですので、その辺の話も。やっぱり、今でも懐かしい良い思い出もあれば、悲しい思い出、つらい思い出もあろうかと思えます。話しにくいこともあろうかと思うんですけれ

ども。そのあたりまた、お一人ずつ述べていただいてもよろしいでしょうか。

男性 私が小学校に入った時は、『あの絵』の小学校だな。小学校に入る前は、下に小学校があった。それが2学級の小学校だった、確か。で、新しく建てたのが『あれ』、新しい学校。

女性 私たちが2年生の時に学校に入った。

佐々木 古い学校はどちらにあったんですか。

男性 ここにあった。今の公民館のこの位置に。で、2学級あった。

男性 あそこに大きい桂の木があった。

男性 おらたちはこの上の学校に入った。思い出って言っても、おらたち同級生は15人いた。その中でも運動会だけが自分は楽しみだった。自分はその中で一番足が速かった。良い思い出と言えばそのくらい。

佐々木 では、悪いこともいっぱいあったんですか？



昭和40年頃の藤沢小学校

男性 うん。まあ貧乏は貧乏だったんだけど、皆貧乏に慣れてたからな。

男性 運動会はどこでやった？

男性 運動会はさ、グラウンドがなかったの、あの墓地の奥の、あれから2キロぐらい奥に行った、山の方に広場がある。あまり大きい広い原っぱではないけれども。そこでやった。今にしてみれば、一反歩くらいのもの。おら小さい頃だから広いと思っていたけど。

男性 1学級10人以上いたろう。

男性 おらたち15人いた。

男性 それなら、全部で80…。

男性 80~90人位いたんだもの。学校で。なので、運動会は楽しみだった。あっちに行った、ここではやれなかった。

佐々木 その時は最初から、朝やる時に「向うで集合」みたいな感じで？

男性 『あの学校』になってから、下の方が広場になって運動会やった。だから、ちょっとごっちゃになってるけども…。おらたちの時は、あの下で運動会やったかなあ。田植え終われば、運動会っていうのは最大のイベントだもの、町内でな。

女性 前の晩から場所取りして待ってる。

男性 そうなんだ。昔は何にも楽しみがないものだから。

土井 小学校行事なんだけれども、皆さん来ていたと。

男性 うん、全部皆。

佐々木 じゃ、子供がいなくとも大人も来ていた。

男性 うん。

佐々木 じゃ、結構集まる人は多かったんじゃないですか？

男性 うん、多かった。いや、まず集落全部集まったもんだな。

女性 みんながそれを楽しみにして集まったんだもの。

土井 (話を聞く中で) 200人以上集まったってことですよね。

男性 うん。親類も来るわけだもんな。

佐々木 そのときの写真なんかあるんですか。

女性 うん。一輪車に親が(子供を)乗せて走ったこともある、写真もちゃんとある。

佐々木 では、とくに悲しい思い出はそれほどなく。

男性 うん。

佐々木 あなたはいかがですか、小学校時代の。

男性 その、桂の木がそこにあったことは覚えているが、2クラスしかなかったというその教室の思い出がない。上にいた思い出はあるけど。

男性 当時、小学校に廊下がなかったの、トイレに行くのに教室に入って後ろの方を歩いていったものだ。何かあれば、壁になっているところを取り外して教室を広くすることもできた。真ん中に仕切りを入れて、こっちに1、2、3年生、そっち側4、5、6年生というように。学芸会のような時は、真ん中の仕切りを取り外した。

男性 それ、自分は記憶がない。

男性 自分は祖父に、小学校に入る前に、しょっちゅう学校に連れていかれた、遊びに。それで覚えている。

佐々木 どんな遊びをしたんです。

男性 覚えていない。

男性 皆、子守しながら勉強したもんだから、姉さんたちが面倒見てくれていたのではないかと思う。

佐々木 兄弟は何人くらいいましたか？

男性 私は8人兄弟。まだ皆元気だが自分が一番上。

皆、その位はいた。7、8人か5、6人。

佐々木 全然、今と違いますね。

男性 うん、貧乏でも育てたものだ。投げておいても(放っておいても)育つものだ。

女性 それと、昔は親が地区外に働かずにいるから、畑や家の仕事だけしていたから、それで。

男性 昔の話していたら熱くなってきた。

佐々木 では、あなたはいかがでしょう。

男性 私は、団塊の世代なので、同級生が23人もいる。

楽しいことといえば、夏休みに、今そこの杉が生えているところ、昔は開墾で畑をしていたが、そこでジャガイモをもらって、あそこの一番奥の堤に泳ぎに行き、鍋を持っていったり。まず、海まで行けないので。



あと、冬になれば学校が凍っていたので、ランドセルにロウソク塗って、ソリにして。あと、初代の公民館の館長やった人、あの人の子供が、おらたちと、盛田川に粘土取りに行った。それで、溺れて亡くなった。そのあと校長先生、ヤマダテ氏が現役で亡くなった。で葬式を学校で行った。子供が亡くなって、親も亡くなってしまった。病気で。

佐々木 ここで突然ですけども、今いらっしゃいましたので、一言自己紹介をお願いします。

須藤桂允 須藤桂允です。町内会の副会長、並びに会計を担当しています。以前は公民館の館長もずっとやっていました。青年団の団長もやっていました。

昭和22年生まれです。一番の思い出は、当時小学校ではお昼が出なかったの、自分で食べるのはジャガイモ。どこへ行ってもジャガイモはあった。私のうちは国道沿いで遠いから、公民館に行くとジャガイモをくれる。それをもらってまた学校へ帰って来ると。米よりもジャガイモが主食で、昼はいつもジャガイモだった。あとはスキーですね。その時、カブとか大根を干したりしているところがあって、かなりご馳走になりました。カブでも何でも生で食べた、美味しかった。空腹だったから。

佐々木 順番戻っていいですか。2番目の、藤沢小学校時代で思い出に残るものを。

男性 小さい頃は賢い子供だったので、校長先生に叩かれたこともあった。昔の先生は皆叩いたものだ。

餅は高級品だった。家で親が忙しかった。年長者も家にいなかった。他所に行った時、芋が出ていて、食べたくてもらってきた記憶がある。

男性 ジャガイモも、ストーブの上で焼き芋みたいにすると美味しかった。昔はサツマイモなどは高級品だった。山に遊びに行く時にも、途中の畑からジャガイモを掘っていったものだ。ジャガイモは売るといよりは、食べるために植えていた。デンプン用に出荷もしていた。ジャガイモ掘りを手伝わないと遊びに行けなかった。

佐々木 今、思い出したのでですけども、当時の生活時間というのは。

男性 昔はランプだった、ランプ磨きとかしたり。電気もよく消えた。電気はあったと思う。街灯はなかった。夜はあまり出て歩かなかった。火の用心を拍子木叩いてやった、小学生の頃、各班交代でやった。7班まであった、みんなでやった。区域の子供たち。今の町内の班と同じ。国道の方まで回っていった。当時は全然車が通ってなかった。

佐々木 話を進めさせていただきます。いかがです、藤沢小学生時代の思い出は。

女性 開墾やった時、学校の裏山でみんなで畑をやった。おにぎり作ったりして食べた。学校の行事でやった。学校の畑だった。ジャガイモとかカボチャ、マクワウリ、スイカとか。学校の便所の糞尿を畑に運んでいったこともあった。直接汲んでいった。

男性 学校で採れたものを今日はみんなで食べましょうということで授業中に食べることもあった。

女性 学校でも、落穂ひろいやったり、イナゴを佃煮にしたりもした。タツブ（タニシ）もとったり。昔は、砕かないで穂のままだから、穂が地面に落ちていた。

男性 その頃は、昭和30年頃かな。

佐々木 では、あなたはいかがでしたか？小学校時代の一番の思い出というのは。

女性 学校の裏の方で、ばったんばったんて、穂を叩いて（脱穀）、ムシロの上で。木の棒に紐をつけておいて使った。

佐々木 やはり、勉強よりも農作業や食べることの方を、毎日の仕事に。

土井 うちでも祖母が作っていました。

女性 イナゴは今でもどこかで、作ってると思う。

佐々木 いかがですか、小学校時代の思い出は。

女性 雪降れば教室で窓から雪を入れて、掃除するの、あれは楽しかった。雪を水の代わりに。皆、長靴で滑って歩いて楽しかった。机のふたを外して使った。だるま靴というのがあって、配給されていた。

佐々木 では、あなたはいかがです。そのへんは。

女性 私は母親として、子供が多かったが、良いものを着せてあげられなかった。服の前面がきれいなものと、後ろがきれいなものを合わせて、継ぎ当てしておいて、学校に行く時だけは良いものを着せるようにしておいたら、いくら話しても、その継ぎ当てしたものだけを

着てしまって、そういう思い出がある。昔は、必ず継ぎ当てして着ていた。楽しいと言えば、まず運動会があった。ほかに、子供の兄の方は体が丈夫だったが、2番目は体が心配だったので、運動会では走るのが遅かった。運動会のご飯は笹もちと本当のご飯だった。昔は6月、田植え休みにやっていた。仲良く村の休みとして皆、農作業を休むようになっていた。休む決まりを作っていた。しかし、地区外に働きに行っている人は休めないという声もあった。

佐々木 では、あなたはいかがですか、小学校時代の思い出。

女性 私は、ジャガイモ植えたのがまず。あと、学校で薪を使っていたので、その薪割りの時、自分のうちでは男手に変わって、小学生の時に自分が参加した。7月末に薪割りをして、集落の人が集まって小学校のために行った。薪割りをして暑かったのを覚えている。うちで男の人がいなかったので学校を休んで田を耕すとか、



苗代の作業とかそういうのもやるとか、馬のさせ取り（代かきのための馬の誘導?）もやった。昔はうちで脱穀していた、足踏みの機械（回転式か?）で。秋に、馬を連れて帰る時に落穂を拾って生

米を食べた思い出がある。馬が国道に出てしまって騒いでいたこともあったようだ。学校から帰れば、馬の草切作業があった。朝早く起きて草を刈って、しよって、オシギリ（切断用の器具?）で草切りをした。

佐々木 いかがですか、その辺の思い出としては。

男性 私の思い出は、先生に叩かれた思い出かな。楽しいことは、何あるかな。

女性 家にいれば仕事をさせられるから、皆学校に行った。子守しながら、隠れて勉強していた時代。

男性 中学校の時は、学校に行かないで山に行って遊んでいたこともあった。

女性 冬は人の足跡をたどって中学校に行くようなこともあった。寒くておでこが痛くなった。

佐々木 いかがですか？

男性 良い思い出ばかりで、あまり悪い思い出はない。とにかく先生が変われば、校長先生だったかな、いつも餅を先生にもっていったという記憶がある。赤飯やだぐ酒などをもっていった。演芸会では芸もやった。演技の場面で祖母が弁当を舞台にもってきて「食ったマネしなくてもいいから、これを食べろ」といった、ぼた餅でも小豆ツルでもなんでも、劇の最中にそんなやり取りをしていた。

佐々木 なんだか、すでにもう3番目に入っていますね。とりあえず、4番目に行きましょうか。今、中学校の話が出てきました。皆さん、中学校は山口中学校だったんですか？

男性 西平内中学校。ここから2キロちょっと。山口中学校の生徒とはしょっちゅう喧嘩していた。今でも、コノヤローとしゃべる相手もいる。当時、石投げてきた者もいた。盛田川を挟んで石投げもしていた。誰も当たらなかった。

男性 こちらが魚を釣っている時に、向こうが面白くないので石を投げてきたこともあった。

女性 自動車事故にあつて足を悪くした人もいた。

佐々木 いろいろと過去の思い出などあると思いますが。現在、だいぶ子供の数も減ってしまって。これから、今度は先のことですね。皆さんの方から何か託したい夢などありましたら。

数人で会話 今、何人くらいいるかな。小学校で十何人位かな。一家で青森の方に行くと話していた人もいた。佐々木 そうしますと、皆さんの子供の頃は、結構自由闊達なご意見が出ましたけれども、今の子供さんたちとは、接触が少ないということなんでしょうかね。

皆 うん。

男性 おらたち小さい、学校の頃は自分たちで遊びを独創的に考えてやっていたものだ。先輩たちからも遊びを教わった。今の子供たちはなんも、ゲームばかりやっていて外に出ない。駄目だと思う。

男性 遊びたくても遊ぶ仲間がないんだもの。今は。当時は外に出れば、皆集まってきたものだ。喧嘩もしたけれど、人間関係をまとめる人もいた、今はそういうのはほとんど見られない。

女性 それに加えて、子供が生まれる数も少なくなったし、そのようなわけで、先祖代々の繋がりもなくなっていると思う。人数がいれば誰かが地元に残る。子供も親の面倒のことを考えなくなった。

男性 自分でも、他の仕事は誰にも頼れないので、一人でやるようにしている。

佐々木 なかなか深刻な話になってきましたね。

男性 今の生活が、そうしなければ生活できないようになってきているのではないかと。自分は8人も兄弟いるから、盆になれば20人くらい集まる。

土井 ほんとに、近くに一つ屋根の下に住んでいなくても、集まる時にパッと集まれるような、距離が。今、やっぱり個人で生活したりとか職場が離れていたりとか、そういう環境で過ごさざるを得ないから、せめて何かある時に集まれるような状況が維持されていさえすれば、悪くはないですよ。

男性 うん。自分はやっぱり、盆でもなんでも皆毎年来れば嬉しい。妻は大変だけれども。

男性 やっぱり、家長の考え方だな。

土井 それは、皆さんそれぞれの世代の家で、家長さんが同じような考えを持っておられる人、まだ多いですかね。

男性 んー、人それぞれだからなあ。自分ばかり「来い来い。」といったって、妻が良い顔をしなければ、向こうも来づらくなるな。

数人で会話 みんな仲良くしなければ。妻を褒めるふり

しておかないと。

土井 夫婦円満が、まず大事ですね。

男性 そうそう。

男性 子供たちが少なくなって、また、中間の若い人たちがいなくなったので。その若いものが集まって、遊ぶもよし、しかしそんな機会が何もない。自分たちの時代のように、集まって良いことも、悪いこともする人が誰もいない。



男性 現在、自分たちが今いろいろとやっているけれども、自分たちが出来なくなったら、次の世代というと、ちょっと、いないんですね。

土井 そこが、多分一番ですね。せつかく、こう地域活性化ということでやってきても。

男性 まず、直売所やあれもこれもと、いろいろとやってきて。しかし、この連中で皆やっているわけで。

自分たちが歳をとってしまったら、次の世代のあり方が

見えてこない。

男性 昔青年団に集まった人ばかり、今こうして集まっている。その下というのがほとんどいない。見えてこない。

土井 それこそ、職をリタイアした方々に声をかけていくというのは、反応はないですか。

男性 出てきても、ここに帰ってこなければ。いないなあ、まず人自体がない。

男性 いる人たちの中でも、できるだけ引っ張るようにはしてるんだけど。なにか機会がなければ。

土井 では、夏祭りとか新年会とかで。声かけて、手伝ってくれよと。そうすると、何人かは新しい人が加わってくれる感じですか。

男性 うん、そうそう。

土井 そうですか。当面そういうことをやっていくしかないですよ。

男性 なので、顔だけ見ても声を掛けられない人がいる、というのは良くない。

女性 結局は、うちの息子たちも家から離れて青森に

行って生活している。今、自分の家に戻っても、集落の人は全然わからないわけだ。何年も向うにいて会話することもなし。

土井 そういった人たちを迎え入れるための『ウエルカム〈歓迎〉』みたいなことを。戻ってきた人たちが地元で適応できるようにするために。何か、ありえますか。

皆 うん。そうですね。

男性 それに一つの可能性を、期待しているんですけど。

女性 都会で生活してしまったら、向こうの方がいいだろうな。なかなか来ないよね。

土井 例えば、今、無人販売所が出来ていて、会計担当が出来そうな人、仕事関係でリタイアした人とか、今ここで始めた活動をサポートしてくれる人を外から引っ張って来るとか。

男性 そういう人がいれば、すごく助かる。

男性 今、授業料を払ってパソコンを習っている。

佐々木 今日は、予定が一時間半ということで、この辺で区切りましょうか。どうもありがとうございました。

編集後記

弘前大学メンバーが藤沢にお邪魔するようになって3年目。今年は獅子舞継承に向けた具体的アクションが起こり、さらに、“直売所ふんちゃ”がオープンしました。1年目の3月に「やりたい・できそう」とされた10個の取り組みがほぼ完全に実行に移されました。これは本当に凄いことです!改めてふんちゃの皆さんの団結力と行動力に心より敬意を表します。2年半の時を経て、藤沢の活動は新しい段階に突入したと言えるでしょう。これから先も伴走させていただければ、こんなに嬉しいことはありません。(土井良浩)

いんでねえがふんちゃ vol.3
～ふんちゃの歴史と未来～

[発行日] 平成29年3月17日

[発行] 藤沢町内会、平内町役場 企画政策課
弘前大学 大学院地域社会研究科 藤沢プロジェクトチーム
(佐々木純一郎、土井良浩、竹ヶ原公、下田雅次、工藤洋司)

[編集] 土井良浩

[デザイン] minimum

●お問い合わせ

平内町役場 企画政策課 TEL.071-755-2111 (232)

弘前大学 学務部教務課 TEL.0172-93-3960